



ネパール大地震からの復興状況について

Federal Democratic
Republic of Nepal

株式会社エムジェイツアーズ

2015年4月25日にネパールを襲った大地震から既に半年が過ぎました。

地震により多くの人命が失われ、また家屋の全半壊や生活物資不足など甚大な被害をもたらしましたが、地震発生直後から各国の緊急支援隊やNGO等の協力のもと、現地の人々による懸命な復旧作業が続けられてきたこともあり、完全とはいえないものの地震発生前と同じような日常生活が戻り始めています。

今回、地震からの復旧状況、特に観光インフラを中心に視察し、観光ツアー再開の可能性について確認してまいりました。

これからのネパールツアー企画の参考になれば幸いです。

治安について

ヒンズー教、ラマ教、イスラム教が混在する国・ネパール。戒律上、犯罪に対する厳しい処分がある国は比較的治安がよいと考えられておりますが、ネパールもこれにあたります。

地元の人のみならず多くの観光客が訪れる旧王宮広場(ダルバール・スクエア)は、狭い空間に多くの人が集まることから、他の外国同様、スリやひったくりなどが多いのではないかと思われがちですが、危険を感じさせる気配は少しもなく、安心して観光を楽しめる場所でした。人々はこのんびりと散策や買い物、またお祈りのために集まっています。

また、カトマンズ近郊の町・バクタプール(Bhaktapur)では、ヒンズー教のお祭りも見学もいたしましたが、旧王宮同様、身の危険を感じることは一切ありませんでした。地方都市・ポカラものんびりとした雰囲気、そのような犯罪とは縁遠い町のように感じます。ネパールを旅行する際は、旅行者として最低限の注意を払い、節度を守って行動さえしていれば、問題なく観光を楽しめると考えてよいでしょう。



カトマンズの旧王宮広場(ダルバール・スクエア)のようす

インフラについて

カトマンズ中心部では、生活のための基本インフラの修復は概ね終了しておりますが、地震発生以前から電力需要が逼迫していたこともあり、今も継続的に計画停電が実施されています。それ以外は、滞在上、何の不便もなく過ごせることを特に強調したいと思います。

地方都市・ポカラは、地震の影響は一切なく、人々は平常時と何ら変わらない生活を過ごしております。

一方、村が完全に壊滅した首都から離れた東部地域では、基本インフラどころか住居すら再建できない場所も数多く見受けられます。

観光インフラについて



カトマンズ国際空港

【空港の状況】

空港の運営に関しては既に平常に戻っており、管制に混乱もなく通常のスケジュールが確保されています。ターミナルに壊れた様子もなく、倒壊の危険を感じることはありません。お世辞にもきれいな空港とはいえませんが、これは以前からのことで今回の地震とは全く関係ありません。

一方、国内線ターミナルは現在新築中ですが、国内線各社は、国際線同様、通常通り定期運航を確保しています。

【観光スポットの状況】

カトマンズにある7つの世界遺産に関しては、15～16世紀に建造されたものが多く、しかもレンガ積みの建造物であったことから、大きな被害を受けています。旧王宮広場(ダルバール・スクエア)内に密集する寺院の多くが、全壊・半壊となっています。(全壊 カスタマングッパ、タレジュ寺院など)

その他、主要観光スポットの状況は次の通りです。



カトマンズ・旧王宮広場(ダルバール・スクエア)周辺のようす

●クマリの館

倒壊は免れたものの建物が傾いていることから、柱で補強されています。



クマリの館

●スワヤンブナート

既に仏塔の修復は終了しており、現在は、平時と変わらず、早朝よりお参りの人が絶えずに訪れています。頂上付近の僧院や土産物店などの一部では、修復作業が行われておりました。



スワヤンブナート頂上付近



●東部地区

世界遺産・バクタプル (Bhaktapur) の旧王宮広場 (ダルバール・スクエア) 周辺の寺院や仏塔などは、カトマンズ中心部よりも大きな損害を受けています。全壊した建物の横に当時をしのばせる大きなポスターが貼られているのが印象的です。現在、瓦礫を撤去し一部修復が開始されておりましたが、世界遺産の修復にはユネスコを始め多くの国際団体の許認可が必要であり、それに時間が費やされていることが修復作業の遅れにつながっているとのこと。



バクタプルの旧王宮広場(ダルバール・スクエア)周辺

●ポカラなどの地方都市

その他、ネパール観光のメインともいえるヒマラヤの観光に関しては、地方都市・ポカラを中心としたリゾートホテルを起点とする軽トレッキングなどであれば問題ありません。他の地域にない雄大なヒマラヤの展望はおすすめです。



トレッキングルート



アンナプルナ山系を望む



ポカラ空港

【ホテルの状況】

インターナショナル系のホテルに関しては、既に通常営業を行っています。元々耐震性が確保されていたこともあり大きな被害はなく、外壁の一部にヒビが入った程度の被害で済んだケースがほとんどです。既にハイアットリージェンシーやクラウンプラザ、シャングリ・ラなどのデラックスホテルには、中国人グループの予約が入り始めている模様です。

耐震性の検査も終了し、いち早くオープンにこぎつけたデラックスホテルとは反対に、その他のホテルの中には、国の検査が終了しないため、営業を再開できないところもあります。検査チームが来るのを待っているもののチーム数が少ないため、検査に時間がかかっているのが現状です。

検査で異常が認められない=使用可能な場合は「グリーン」、倒壊の可能性があるなどの異常が認められた(=使用禁止となる)場合は「レッド」カードが交付されます。(その他、要修復の場合は「イエロー」カードを交付)

なお、外国人旅行者が利用するホテルの多くは、グリーンカードが交付される見通しです。

【レストランの状況】

ツアーなどで日本人旅行者が訪れるようなレストランのほとんどが営業を再開しています。食材の仕入れに問題はないものの観光客が少ないことから、一部のショーレストランはクローズしています。予約が入り次第、順次ショーを再開するものと思われます。

なおツアーでネパールを訪れる日本人旅行者の場合、ホテルで夕食をとることが多く、市内のレストランを利用するケースが少ないことから、レストランに関してはそれ程、問題はないと考えます。

まとめ

空港を始め旅行者を受け入れるための各種施設は、ほぼ通常通りに運営されており、観光客のハンドリングに問題はないものと思われます。ネパールは国の基幹産業が観光であることを考えると、海外からの送客が一番求められる支援ではないかと強く感じました。

現地ツアーオペレーターがほとんどが小規模で財政基盤も弱く、アウトバンドや国内旅行も育っていない現状を考えると、このままの状況が続けば、会社を存続できないのではという危機感が募っています。

我々が支援として出来ることは、まず、当地の安全性を広く知らせ、一刻も早い商品企画・販売を行い日本マーケットの存在感をアピールすることではないかと考えます。

※注: 上記内容は、本年8月下旬～9月にかけて行った調査に基づき記載されております。同紙発行時点では、内容に一部変更が生じている場合もありますので、予めご了承ください。